

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 八代市立第一中学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	全校生徒 730 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高めるとともに、オリンピックの取り組みや姿勢を学ぶ。
5 取組内容	オリンピックによる講演会及び実技指導 平成 30 年 2 月 2 日(金)に本校にて、成迫健児氏(オリ陸上: 400 メートルハードル) を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 タイトル:「競技を通して伝えたいこと」 成迫氏は、はじめに北京オリンピックの選考会の動画をみながら、400 メートルハードルの説明をしてくださった。 ハードル走に必要な技術やタイム、また、気をつけている点等を教えてくださった。 次に、自らの競技生活についてお話ししてくださった。 小学校時代にはサッカーと水泳に励んでいたが、中学に入って陸上をはじめたという。高校時代に世界ユース大会銅メダルを獲得するまでは、記録がどんどん伸びていったものの、そこで壁にぶつかってしまったとのことである。精神的にも肉体的にも不安定な時期が続いたが、後になってみれば、当時自分が天狗になっていたのではないかと振り返っていた。 その後、スランプからなかなか脱せず、陸上競技をやめたいとも考えたが、自分の強みやいいところを伸ばしていくように切り替えたところ、気持ち的にも変化が生まれ、記録も向上したとのことである。特に、大学での栄養学を活かし、食事に気をつけるようにしたと話し

	てくださった。 アテネ五輪の代表を逃し、オリンピックを経験したバドミントン選手に話を聞いたりして、練習方法に工夫を重ねていくようになると、自分で答えを作り出すことが大切だと気づいたという。次の目標に向かえるようになり、大会での成績も収め、北京五輪の代表になることができたという。北京大会では予選敗退だったが、楽しそうなボルトの様子が印象的だったことや、次の東京大会に向けてチャレンジしているという話をしてくださった。 最後に、色々な人に支えられていることを忘れずに、友達と切磋琢磨しあって頑張してほしいとメッセージを頂いた。 (2) 実技指導 実技指導では、グラウンドにて陸上部のメンバーにハードル走を教えていただいた。
6 主な成果	講演内容からみる成果 オリンピックに出場するくらいの選手になるためには、自分の日々の行いを振り返り、反省をすることが大切であることを学んだ。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	講演のみではなく、実技指導を実施することができた。
8主な課題等	実施時期がインフルエンザの時期と重なったため、欠席者が多かった。
9来年度以降の実施予定	実施予定